

# 保健環境研究所だより

## もくじ

- ・ COVID-19のパンデミックから5年経過して P1
- ・ 2024年度地域保健福祉助成事業に「防かび剤の分析法」が選出されました P2
- ・ 食の安心・安全意見交換会が開催されました P2



No. **123**  
令和7年1月

## COVID-19のパンデミックから5年経過して



所長 藤田 直久

2019年12月31日、中国の武漢市で27人の肺炎患者が市内の医療機関に入院していると世界保健機関（WHO）に報告された。これが新型コロナウイルス感染症（COVID-19：corona virus infectious disease 2019）と呼ばれる新興感染症（人類がこれまで経験したことの無い新しく見つかった感染症）の始まりです。原因病原体は、2002年に流行した重症急性呼吸器症候群（SARS）の原因ウイルス（SARS-CoV）と類似し、SARS-CoV-2と命名されました。WHOは2020年1月30日「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言、3月11日には「パンデミック（世界的流行）」宣言をしました。COVID-19の発生から2024年末までに感染者約7億7600万人、死者約707万人とのWHOの報告です。日本の第一例は1/15で、以後日毎に陽性者は増え、緊急事態宣言が出され、ワクチン接種に加え、人の移動や社会活動が制限され、流行の波は一旦落ち着くかに見えましたが、行動制限緩和や変異株の出現により、流行状況は刻々と変化しました。振り返ってみると、この5年間に何度も流行の波に襲われました。COVID-19による日本での死者数は累計10万人を2024年末で突破し、また、「五類感染症になって以後の2023年5月～2024年4月の1年間で、新型コロナウイルスによる死者数が計3万2576人に上った」との厚生労働省の人口動態統計からの報告もあります。これまで20世紀以降でこれほどまでに大流行した感染症はありませんでした。

新興感染症が発生したとき、医療従事者を含め多くの人々は何らかの不安に襲われ、不安が不安を煽り社会はパニックとなります。医療や科学が発達した現代においても人の反応は大きく変わりません。COVID-19発生のごく初期に起こった病院でのクラスターでは、その病院の職員は店の入店を断られたり、病院の職員の子供もというだけで登園を拒否されたり、さまざまな差別や人権侵害が起きました。また、SNS上でもさまざま誹謗中傷が流れ、多くの人達の心を傷つけ、今もなお続いています。

COVID-19の大流行により、国全体での健康危機管理体制が見直され、令和7年4月1日には国立健康危機管理研究機構（JIHS）、いわゆる日本版CDCが稼働します。これまでの従来の組織とは異なり、次の感染症危機に備える新たな高度な専門組織であり、大いに期待するところです。

「感染症を正しく怖がる」ことは大変難しいことですが、適切な対処と行動をとるためには、感染症を正しく理解することが大切です。当研究所では、将来必ず起こる新興感染症に備え、「感染症を正しく怖がる」ことができ、正しい判断ができるよう、タイムリーかつ理解しやすい情報を府民の皆様へ提供し、みなさまの健康と安全を守るよう、当研究所職員が一丸となり対処してまいりたいと思います。

## 2024年度地域保健福祉助成事業に「防かび剤の分析法」が選出されました

毎年、公益財団法人大同生命厚生事業団の主催する地域保健福祉研究助成の募集が行われており、今年度、理化学課が応募した「防かび剤の分析法」に関する研究が採択され、助成を受けることになりました。

この助成は地域で保健・医療または福祉の活動に従事する方の研究を支援することにより、我が国の保健・医療及び福祉の向上に寄与することを目的としています。

昨年9月、2024年度「地域保健福祉研究助成」の近畿地区助成金贈呈式が開催されました。

贈呈式では、他の研究者との交流の場も設けられ、研究における課題について意見交換する貴重な時間を過ごすことができました。

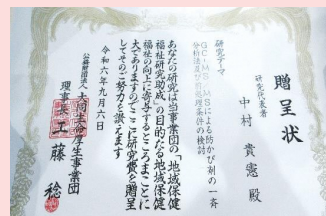
自治体での研究に助成をいただける機会は限られており、今回応募した研究は、当所で毎年行っている食品添加物である防かび剤の検査を、より簡易で効率的な方法に改良することを目標としています。この研究によって、検査にかかる時間や費用を抑えることが出来るほか、作業者の安全性の向上も期待されます。しかし、こうした研究を進めていくためには研究費用が必要であり、このような助成活動は研究者にとって大変励みになります。

今回の研究成果で地域に貢献し、今後も引き続き食品衛生分野での研究に取り組んでまいります。

<理化学課>



2024年度近畿地区助成金贈呈式の様子



助成金贈呈状

## 食の安心・安全意見交換会が開催されました

令和6年9月9日(月)、当所が初めて会場となった食の安心・安全意見交換会が開催され、府内の消費者団体の方々に参加されました。当日は検査担当者による以下の講義が行われました。

- 残留農薬検査
- 組換え遺伝子検査
- アレルギー検査
- 水産加工品中のヒスタミン検査

その後、参加者は実際に使用している検査機器を見学し、食品検査の方法について理解を深めていただきました。

今後も食の安心・安全に向けた取組みの一環として、府内で生産、製造又は販売される食品等に対し、違反や不良品の流通を防止するため、検査機能をさらに強化していきたいと考えています。

<理化学課>



### アンケート結果から

- 「施設や検査機器などを見学したことで、京都に流通している食品が『安心』『信頼』できることを実感できました。」
- 「保健環境研究所で実施している取組を、多くの府民に知ってもらいたいと思いました。」

### 編集発行 京都府保健環境研究所

発行日・令和7年1月  
 京都市伏見区村上町395(〒612-8369)  
 TEL(075)621-4067(企画連携課)  
 621-4069(細菌・ウイルス課)  
 621-4167(理化学課)  
 621-4163・4165(大気課)  
 621-4164(水質・環境課)  
 FAX(075)612-3357  
<http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/>  
 E-mail:hokanken-kikaku@pref.kyoto.lg.jp



(交通機関) 京阪電車/伏見桃山駅下車 徒歩約10分  
 近鉄/桃山御陵前駅下車 徒歩約10分  
 市バス/西大手筋停留所下車徒歩約2分